

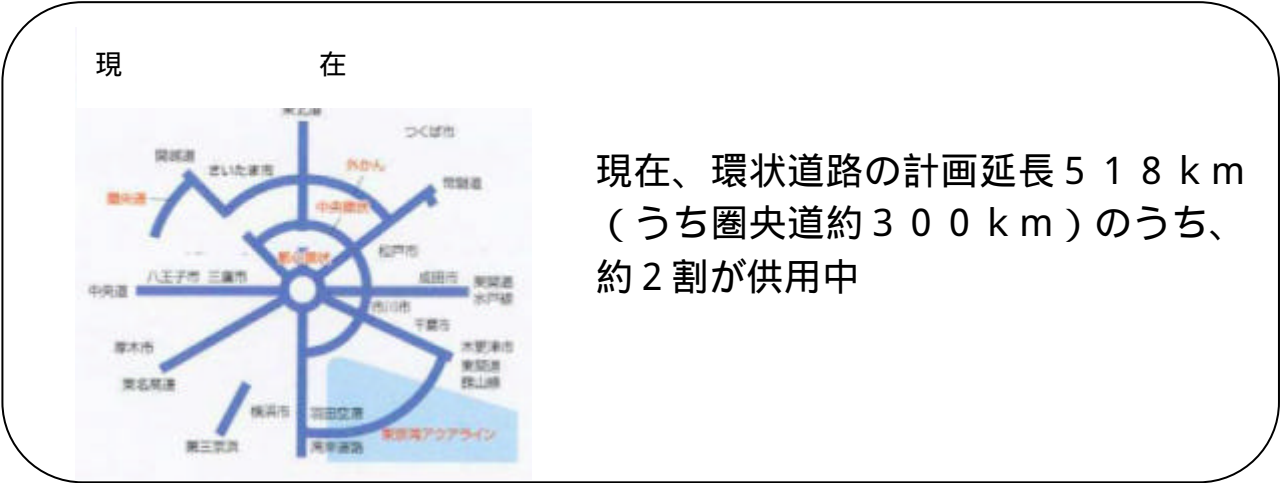
4 . 事 業 の 進 捗

(1) 当初の予定

圏央道の整備にあたっては、整備済みの放射道路を効率的に運用し、環状道路の機能を有する道路ネットワークの形成を考慮して、早期に整備する区間を決定し、順次供用を図ることとしていました。

現 在

現在、環状道路の計画延長 5 1 8 k m
(うち圏央道約 3 0 0 k m) のうち、
約 2 割が供用中

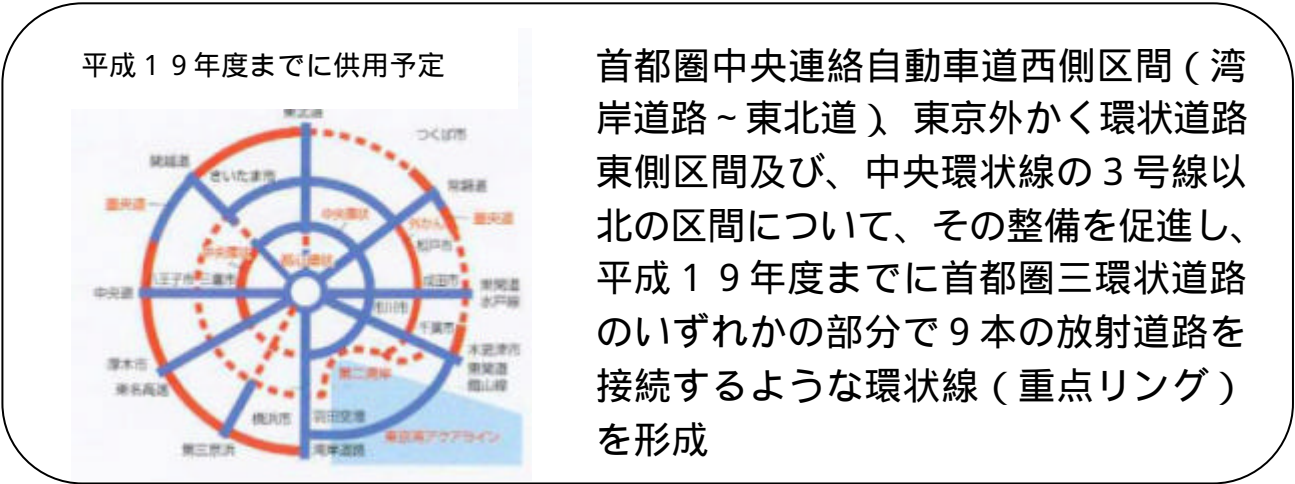


現 在

現在、環状道路の計画延長 5 1 8 k m
(うち圏央道約 3 0 0 k m) のうち、
約 2 割が供用中

平成19年度までに供用予定

首都圏中央連絡自動車道西側区間（湾岸道路～東北道）東京外かく環状道路東側区間及び、中央環状線の3号線以北の区間について、その整備を促進し、平成19年度までに首都圏三環状道路のいずれかの部分で9本の放射道路を接続するような環状線（重点リング）を形成

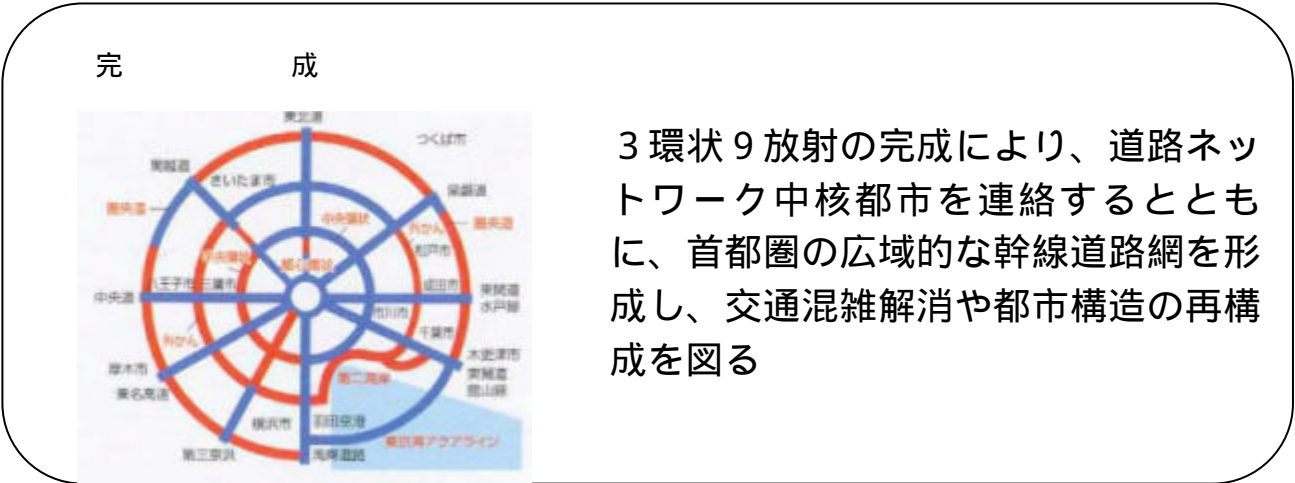


平成19年度までに供用予定

首都圏中央連絡自動車道西側区間（湾岸道路～東北道）東京外かく環状道路東側区間及び、中央環状線の3号線以北の区間について、その整備を促進し、平成19年度までに首都圏三環状道路のいずれかの部分で9本の放射道路を接続するような環状線（重点リング）を形成

完成

3環状9放射の完成により、道路ネットワーク中核都市を連絡するとともに、首都圏の広域的な幹線道路網を形成し、交通混雑解消や都市構造の再構成を図る



完成

3環状9放射の完成により、道路ネットワーク中核都市を連絡するとともに、首都圏の広域的な幹線道路網を形成し、交通混雑解消や都市構造の再構成を図る

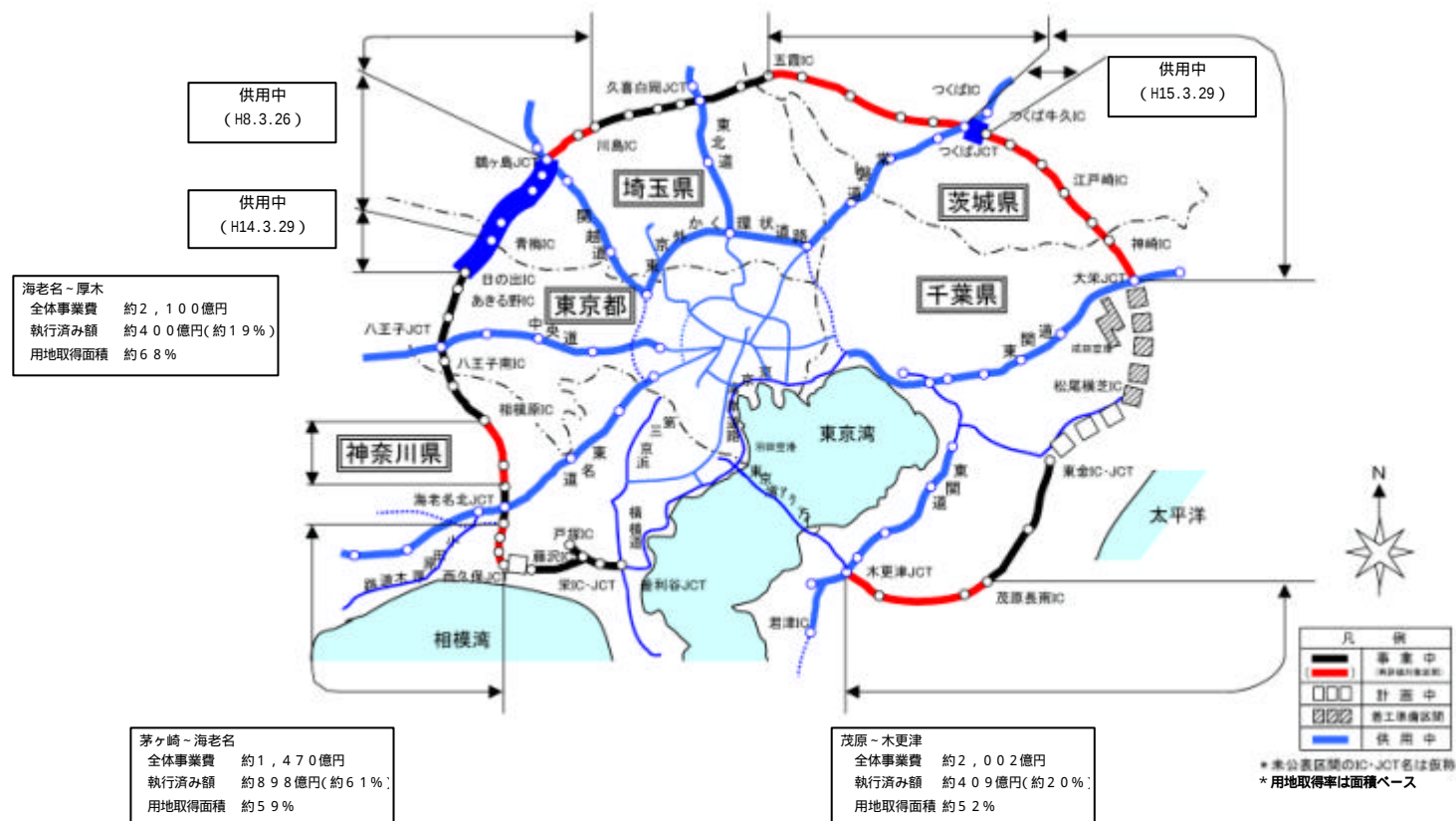
(2) 現在の状況

今回、再評価対象区間の進捗は次のようになっております。なお、圏央道の通過する区間には、自然豊かな地域もあることから、下記のような環境への配慮・復元等を行っております。

鶴ヶ島～川島	
全体事業費	約 1,020 億円
執行済み額	約 659 億円(約 65%)
用地取得面積	約 98%

五霞～つくば	
全体事業費	約 1,760 億円
執行済み額	約 121 億円(約 7%)
用地取得面積	約 6%

つくば～大塚	
全体事業費	約 2,030 億円
執行済み額	約 898 億円(約 36%)
用地取得面積	約 56%



環境への配慮（国内希少野生動植物・天然記念物）

圏央道沿線には、国内希少野生動植物のオオタカの営巣や天然記念物のヒシクイの渡来などが確認されております。再評価対象区間についても各区分において、下記のような委員会を設けて、保護対策について検討しながら、事業を進めております。

○ 鶴ヶ島～川島

「埼玉圏央道オオタカ等保護対策検討委員会」

（委員長：葉山嘉一（日本大学生物資源科学部 専任講師））

○ 五霞～大栄

「茨城圏央道猛禽類保全対策検討委員会」

（委員長：阿部 學：日本猛禽類研究機構 理事長）

（仮称）「茨城圏央道ヒシクイ保全対策検討委員会」（案）（設置予定）

○ 茂原～木更津

「千葉圏央道猛禽類保全対策検討委員会」

（委員長：阿部 學（日本猛禽類研究機構 理事長））

環境の復元

圏央道（茂原～木更津）において、小学校の「総合的な学習の時間」を利用して「建設予定地のどんぐりの採集、播種」を実施しています。1～3年後に育った苗木を圏央道に戻し植えることで、地域固有の自然環境保全に役立てています。



写真：どんぐりの採集、播種の様子

(3) 今後の方針

整備済みの放射道路を効率的に連絡する環状道路ネットワークを形成するため、国内希少野生動植物などの保護、盛土部への植栽などの環境の復元など、下記の供用時期を鑑み、事業促進を図っていきます。

